

屋外ケージ飼養に関する試験(3)

宮園歴造・平島 元・大浦均一

(長崎県畜産試験場)

MIYAZONO, R., HIRASHIMA, H. and OURA, K.
Studies on Feeding of Out Door Cage for Laying Hen (3)

昭和45年度および46年度に西日本の比較的暖かい地域の長崎畜試外4区による試験研究機関で実施した屋外飼育と屋内飼育の単飼ケージによる比較試験成績は、本誌に第1報および第2報で報告したが、さらに47年度は、110日齢以降複飼ケージによる屋外飼育と屋内飼育の比較試験を長崎畜試、高知畜試の2県で協定試験として実施したので、今回は当場の試験成績について報告する。

47年度成績

1. 試験方法

- (1) 供試鶏：白色レグホーン 240羽
 (2) 試験期間：昭和47年9月19日～48年12月13日まで
 450日間
 (3) 区分・方法

区分	日齢	えつけ～30	30～110	110～450
試験1区		屋外用器 屋外飼育すう	屋外用器 屋外用器大 すうケージ	屋外用器 複飼ケージ
" 2 "		屋内飼育 立すう	屋外用器 同上	屋内飼育 同上
" 3 "		屋外用器 屋外飼育すう	屋外用器 同上	屋内飼育 同上
対照区		屋内飼育 立すう	屋内飼育 中すう ケージ	屋内飼育 同上

2. 成績試験

(1) 育成率：えつけより、150日齢までの成績は第1表のとおりである。3区の95.0%から、対照区の78.3%の間であり対照区が他区よりやや低くなった。へい死鶏の内訳では各区とも、白血病が多く、特に対照区に多発し

た。

(2) 生存率：151日齢から450日齢までの生存率は第2表のとおりである。2区90.4%＞、対照区89.4%＞、3区84.2%＞、1区71.7%の順であり1区は白血病によるへい死が多かったため最も低くなった。

第1表 育成率

区分	えつけ 羽数	へい死 とうた 数	育成率	へい死・とうた 鶏内訳		
				白血病	脚弱症	不明
試験1区	60羽	7羽	88.3%	4羽	3羽	
" 2 "	60	8	86.7	7		1
" 3 "	60	3	95.0	2	1	
対照区	60	13	78.3	11	2	

(3) 産卵成績および飼料要求率：150日齢～450日齢までの産卵成績と飼料要求率は第3表のとおりである。ヘンダー産卵率、日産卵量、飼料要求率において1、2区は330日齢頃から390日齢にかけ供試鶏の一部において産卵のクラッチが乱れたため、他区よりやや悪い傾向にあったが各区分に有意差は認められなかった。

3. 要約

育成率は対照区が悪く、生存率については1区が悪かった。また産卵成績においては対照区と試験3区がよい傾向を示したが、いずれも有意差は認められなかった。従って屋外で複飼しても単飼同様飼育方法による差はないものと思われる。なお複飼する場合の問題点は第2報と同様であり、またピークカットの要がある。

第2表 生存率

区分	150日齢 羽数	へい死 とうた 数	生存率	へい死・とうた 鶏内訳				
				白血病	カンニバ リズム	脚弱症	卵分泌	その他
試験1区	53羽	15羽	71.7%	13羽	1羽		1羽	
" 2 "	52	5	90.4	4	1			
" 3 "	57	9	84.2	3	2			4
対照区	47	5	89.4	3	1	1		

第 3 表 産卵成績および飼料要求率

区 分			ヘンデー 産卵率	平均卵重	日産卵量	飼料消費量	飼料要求率	50%産卵 到達日齢
			%	g	g	g	%	日
試 験	1	区	75.0	59.9	45.0	113.2	2.52	155
"	2	"	75.1	59.4	44.6	110.9	2.48	156
"	3	"	79.3	60.2	47.7	112.7	2.36	159.5
対 照		区	82.1	59.3	48.7	115.1	2.36	154.5